

平成 2 3 年 第 2 回定例会

(6 月 1 7 日)

一 般 質 問 資 料

(1 回 目)

自由民主党千葉市議会議員団
向 後 保 雄

平成23年 第2回定例会（6月17日）

2回目から一問一答

通告時間：40分

自由民主党千葉市議会議員団の向後保雄でございます。

先の、統一地方選挙では多くの皆様のご支援をいただき、2回目の当選をさせていただきました
ご支援誠にありがとうございました

引き続き、市民目線に立って活動をして行きたい
と思います

本日は、沢山傍聴にお越しいただきましてありがとうございます

それでは、通告に従いまして一般質問をさせていただきます

1 震災対応について

(1) 東日本大震災の教訓を生かすことについて

まず、東日本大震災の教訓を生かすことについてですが、最初に今回の震災でお亡くなりになった方々のご冥福をお祈り申し上げますとともに、被災された方々に衷心よりお見舞いを申し上げます。

3月11日午後2時46分に、いまだかつて経験したことの無い、マグニチュード9.0という未曾有の大震災とそれに伴う大津波が東北地方と千葉県でも旭市、浦安市、本市では美浜区において甚大な被害をもたらしました。菅政権の対応の悪さには多くの国民が憤りを感じております。3ヶ月経ってようやく今月10日に復興基本法案が衆議院で可決され、本格的に復興への道筋が確立されたわけですが、多くの犠牲者が出たこの教訓をいつ来るとも判らない東海地震や東京湾北部地震に生かすべきと考えます。

そこで伺います。東京湾でマグニチュード7～8の直下型地震が来た場合、停電20万戸、断水147万戸、避難民145万人と予測されると聞いておりますが、本市としては、どのくらいのスピードでどのくらいの高さの津波が来ると予測しているのか、またその場合の対応策をどのように考えているのかお聞きします。

(2) 原発代替エネルギーについて

次に、原発代替エネルギーについて伺います。

週刊現代に掲載されておりましたが、福島第一原発の1号機から5号機で使われている「Mark1」という原子炉を設計したデール・ブライデンボー氏によれば、「Mark1」は、地震や津波などの大きな災害によって冷却機能を喪失すると格納容器に想定されていた以上の負荷がかかり、破裂する可能性があるということです。欠陥品だったといえるわけです。そして、その通りの事故が起きてしまいました。

そして、千葉県でも放射能汚染の危険にさらされています。かつて、海を放射能でもっとも汚染したのは、英国ウィンズケールの核燃料再生処理場の火災事故と言われてきましたが、福島第一原発事故で海に放出された放射能の量は既にウィンズケールの800倍といわれています。

東京電力の商売を邪魔するつもりはありませんが、脱原発を推進して行かなければならないことは多くの国民が理解するところでは無いでしょうか。

そこで伺います。

本市には、原発はありませんが、千葉市として今回の福島第一原発事故を踏まえて「脱原発」による再生可能エネルギーに対する考えをお聞かせ下さい。

(3) 千葉港黒砂台線と千葉駅西口再開発事業への影響について

次に、やっと動き出した千葉港黒砂台線と千葉駅西口再開発事業への影響についてですが、昨年の私の一般質問に対して、千葉港黒砂台線については、23年度中には開通し、千葉駅西口再開発事業については25年の秋には完成するとの御答弁をいただきましたが、震災の影響で資材が届かなかったり、労働者の確保が出来ないという話を耳にしましたので、実際のところはどのようなになっているのか伺います。

また、通行者の利便性の面からペDESTリアンデッキの活用を要望しておりましたが、それについても御答弁をお願いします。

2 資産経営と債権管理について

(1) 資産経営の取り組みについて

次に、本年度4月から財政局の中に、新たに「資産経営部」という部署が出来ましたが、まず、この資産経営の取り組みについて伺います。

公共施設を保有する多くの自治体にとって、わが国が直面する少子・高齢化の進展や、人口減少社会の到来といった社会情勢の変化は、重要な意味を持っていると考えております。

すなわち、人口の減少などによる税収の減少や社会保障費の増大により財政状況の厳しさが増す中、施設に求められるニーズの多様化に伴い、必要とされる施設の規模や量は大きく変化するとともに、高度経済成長期を中心に整備された多くの施設で老朽化が進むなど、自治体は公共施設のあり方について、難しいかじ取りを求められることとなります。

千葉市についても、例外ではなく、これまで大都市にふさわしい都市基盤の整備や生活関連施設整備を積極的に推進してきましたが、このような社会情勢の変化に伴い、現在遊休化している施設や、相当老朽化した施設が見受けられ、引き続き厳しい財政状況が続く中、持続的な自治体運営をしていくために、保有する資産を経営的な視点を持って、いかに有効に活用していくかが求められていると考えております。

そこで伺います。

千葉市における資産経営の現状はどのようになっている
ており、課題は何なのか、お示し下さい。

(2) 庁舎建てかえについて

次に、庁舎の建て替えについて伺います。

昨日、既に我が会派の小松崎議員が庁舎建替えに
ついての質問をしましたが、視点を変えて以下質問
を致します。

熊谷市長が、庁舎の建替えについて新聞紙上で言
及されたため、市民から庁舎建替えについての問い
合わせを何軒もいただきました。

本庁舎は、昭和45年の竣工後、40年以上が
経過し、老朽化や狭隘化が目立ってきており、また
東日本大震災では、庁舎の窓ガラスが破損したり、
天井や壁など一部にクラック等の被害があったもの
の、基本的には無事であったわけですが、今回の震
災によって市役所が被災した地方自治体では復旧活
動に大きな支障が出ております。

そこで、庁舎の建て替えについて、検討することは
必要だと考えますが、一方で、厳しい財政状況が続
き、市民サービスの一部が見直しをされる中で、建
て替えありきで検討が進められるのはいかがかと思
います。市民からも建て替えありきでなく現庁舎を
有効活用すること等について検討すべきとの意見が

私の耳にも届いており、市民に説明責任を果たすためには、慎重な議論をしていくべきだと考えております。

そこで、震災後、現在の本庁舎についての問題は何かあり、庁舎の建て替えについて、今後どのような方向を考えているのか伺います。

(3) 債権管理について

次に、債権管理について伺います

当局がこれまで、市税をはじめ、国民健康保険料、保育料、住宅使用料、下水道使用料について、財政健全化プランに目標を掲げ、徴収率向上のため、民間委託の活用、口座振替の勧奨、コンビニ収納の導入、悪質な滞納者に対する法的措置の強化など、様々な取り組みを実施してきたことは認識しております。

しかしながら、平成21年度の決算においても、徴収率は、例えば市税が92.3%と、政令市の中で最下位であるなど、依然として低い水準にあります。市民負担の公平性の確保や、自主財源の確保といった観点からすると、市税を含めた滞納債権の更なる回収が求められており、厳しい財政状況の中、債権の適切な管理は、今までに増して、重要な課題であり、取り組みを強化する必要があると考えます。

そこで伺います。

債権管理の現状と課題は何なのでしょうか。

3 中央区の航空機騒音について

つぎに、航空機騒音について伺います。

宮崎に住む方から、羽田空港D滑走路拡張に伴い蘇我上空を千葉港ルートと蘇我ルートが交差しているとのご意見をいただきました。

南風運用時には千葉寺、宮崎、青葉、松ヶ丘を中心に1分～2分間隔で大変な騒音に見舞われています。

国の測定器が置いてあるのは大宮台小、大巖寺小、千葉市役所ですが、実際飛んでいるのは測定地点から1～2km離れていてまったく的外れのため、実態が測定されていない状況です。

また、住宅地上空で300mの近差で交差しており、不安で仕方ないと聞きました。春から夏にかけては、ほぼ毎日南風運用になると想定されます。

そこで伺います。

実際の飛行航路と測定地点のずれがあることや、住宅地上空を近差で交差している現状について当局は、どのように考えているのでしょうか。

また、以前、この件については、調査依頼をさせていただいておりましたが、調査の方法と調査結果についてお尋ねいたします。

4 花のあふれるまちづくりと泉自然公園の管理について

次に、「花のあふれるまちづくり」について伺います。花のあふれるまちづくりの推進は、平成15年から「花のあふれるまちづくり取り組み方針」に基づき、様々な事業を展開してきた結果、市内のあちこちに四季を通して、多くの花が見られ、市民が主体となった花のあふれるまちづくりが全市的な広がりとして、着実に浸透してきていることを実感できます。

また、2年前からは花と人のネットワーク実行委員会も立ち上がり、市民、業者、行政が一体となって花の都ちば実現に努力しております。

そこで、今回は行政が管理し、花のあふれるまちづくりの先導的な役割を果たしている、中心市街地における交差点花壇の管理について伺います。

先般、私の知人から、折角の交差点花壇が日陰で花が咲いていないとの声が寄せられました。

確かに中心街の花壇は、大きな建物などにより日照不足の影響を受けやすい場所にあり、維持管理が大変なことは理解しているところですが、そこで2点伺います。

一点目として、中心市街地における交差点花壇の草花選定の考え方について伺います。

二点目は、適正な維持管理の考え方について伺います。

次に、泉自然公園の管理について伺います。

泉自然公園は、市民が身近に自然と触れる憩いの場として親しまれております。お花見広場の桜は見事で、お花見シーズンには多くの見物客が集まります。また、野鳥も数多く生息しております。今回、泉自然公園で、野鳥の写真を撮っている方達からご意見をいただきましたので、お伺いいたします。

野鳥が生息するには、食べ物と自然豊かで所謂隠れ家が沢山存在する必要があります。ところが、散策する人の都合で、竹やぶや雑木林が伐採されてしまったり、毛虫や人間にとっての害虫駆除のために、消毒をしたりしているように聞いておりますが、自然公園としての運営についてどのような管理方針でやっているのか、管理の現状と課題について伺います。

5 モノレール駅の駐輪場の空きスペースの活用について

最後に、モノレール駅の駐輪場の空きスペースの活用について伺います。

モノレールは、本市の重要な公共交通として多くの市民に利用されていることは、ご承知のことです。

今後、少子高齢化が進む中、モノレールの役割はより重要になると思われます。今後は少子高齢化に加え、人口減少という社会を迎えようとしているわけであります。

このことは、これからのモノレール利用者が、劇的に増えていくということは難しく、いずれは横ばいまたは減少するということが考えられるわけです。

こちらは、市内駅の駅端末交通手段分担率の一覧表です。

これは、平成23年4月に開催した第4回総合交通政策会議での資料の一つで、当局から頂いたものですが、平成20年度に実施したパーソントリップ調査の結果で、少し見にくいかと思いますが、上段にモノレール各駅の分担率が示してあります。モノレールの各駅の利用者が、最終的にどのような手段で来たのかを表しております。

これを見ますと、千葉駅、都賀駅、千葉みなと駅では、鉄道からの乗り継ぎが多いほかは、緑色の徒歩で

利用している方が非常に多く、次に水色の自転車での利用が多いことが分かります。

一方、こちらに徒歩の駅端末アクセス圏域の表があります。別名、駅勢圏ともいいますが、これは、鉄道駅やモノレール駅、バス停に歩いて来た方が、何分ぐらいかけて歩いてきたのか。これにより駅やバス停から、概ねどの位離れたところに住んでいる、または用事があるかを利用して利用しているのかを表した割合であります。

真ん中のピンクの線が、モノレール駅の徒歩圏域となりますが、歩いて利用している方の約84%は、歩いて10分、概ね600m圏域にお住まい、または用事があった方となっております。

そこで伺います。

一つに、これらパーソントリップ調査の結果をどのように分析しているのか。

二つに、モノレールの利用促進の考え方について伺います。

以上で、私の第1回目的一般質問を終わります。